



右馬允だより

暑中御見舞

申しあげ



③ 遠いところからの電話ありとのことでした。

寒い日と確かにあっていつかのことからは梅雨のあけるまではそのまゝにして置く暖房器具も28日の朝にはどうにもおかしな景色でこれはまずいと取りはずし29日の暑さ(33°)には身体がついてゆかずお客様があるのにとかわりはず完全にのびてしまいました。例年より12日早い5月27日に梅雨入りし梅雨前線の影響で曇りや雨の日も多く過ぎ易い、たまたま月末に太平洋高気圧に覆われて気温が上昇したとの事。大庭の右馬允の風通しの

よい処にいたすれば たとえ 35°にならうか 大丈夫と思っていたのが怪しいものになって来てしまいました。アガイ草がそこに涼し気な風に揺れています。草取りに熱中してれば汗は吹き出て来て 身体は燃えるようです。年々大きくなって来たら 全ての事が今までとは違ふように思います。この頃 杏草かとれて お客様にお返し出来るのですから、この暑さのせいでしょうが 姿が見えません。

暑さに耐けた29日は 村では「三六災害を語り継ぐ会」の催され、そして当時を今井積さん(当時38才)がお話しして下さいました。正介もそのように言っておりました。屏風かハタキと別れるようたつた。大西山の大雨落は それを3回繰り返したそう。死者55名、75×79坪の水田、522戸の住宅、道路、耕地、家財、施設、物資損害32億、400万円とこの世の終りを遂げるのではないかと50年前の村民みんなそう思ったといふ。高台にある前島家は被災した人々の数多く登って来て生活と共にいお屋とあつたことを反子母から聞きました。それにしても人間の生きる力は天したまひです。とんぱに打ちめされても必ず復興という大義の基でここまで歩んで来ているのですから。現在88才になる積さんはあの日受けた思は決して忘れない。親切に励まし食べ物と肩叩てくれた全て失った私たち家族に避難所下、どら、た鍋、まな板 おわんを今もって大切に使っている。この鍋で作った煮物の味が一番好き、50年間使い続けたまな板は毛が半分になり、このおわんが良いとみそ汁を飲んだ気(ない)。お世話になった人々への思を決して忘れない。この点セットは生きている限り毎日使うのだと 真白く作った髪と後で染め 梳かか、しかし強い意志をもつて私たちに語り下さいました。平成の語り部として 大庭村になくてはならぬ 尊い人材をいら、しい村。今後 益々のご活躍をされる方を。